

卵巣癌 | Disease Landscape & Forecast

2015年9月発刊

卵巣癌薬市場は依然として開発企業に商業的価値の可能性を示す。本疾患は初期に化学療法へ良好に反応する傾向があるため、現在の薬物治療は化学療法薬に大いに依存するが、専門医は治療アウトカムの改善に向け標的薬を益々求める。その為、実質的な事業機会が、化学療法の有効性を増大できる、又は取って代われる治療薬に存在する。今後10年間に新規薬剤数品目の参入が予測されるが、一次治療の進行性とプラチナ製剤抵抗性への治療薬を含め、未充足ニーズで重大な領域が依然として存在する。

報告書では、既存・将来の薬剤ターゲットを説明付ける病因や病態生理学、疫学、既存・新規治療の評価、未充足ニーズ分析、七大医薬品市場（アメリカ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、イギリス、日本）の今後10年間の展望について論じます。

調査におけるキーポイント

- 今後10年間に卵巣癌市場規模は2倍以上になると予測される。どのような要因で市場成長は推進されるか？卵巣癌市場は抑制されるか？どのような課題・事業機会が依然として存在するか？
- 主要医薬品市場における卵巣癌への bevacizumab (Roche/Genentech/中外社の Avastin) の承認に続き、血管新生阻害剤の薬剤クラスが2024年までに成長する見込みである。何によって血管新生阻害剤クラスの成長は加速するか？上市が予測される血管新生阻害剤は他にあるか？ bevacizumab のバイオシミラー参入はこの薬剤クラスにどう影響するか？
- 2014年後期、初となるバイオマーカー関連の薬剤 olaparib (AstraZeneca 社の Lynparza) が、米国と欧州で卵巣癌に承認された。olaparib は、別個の承認に基づき各市場でどう受入れられるか？他

にどのような PARP 阻害剤が上市されるか？ PARP 阻害剤の適応患者数は？ PARP 阻害剤の薬剤クラスの売上はどの程度になるか？

- LGSOC の MEK 阻害が可能性ある治療標的として出現した。何品目の MEK 阻害剤が卵巣癌に開発中か？ この薬剤クラスの売上はどの程度と期待できるか？
- 卵巣癌の薬物治療は、依然として化学療法が中心的で、薬剤開発に未充足ニーズの機会を残す。何が卵巣癌の未充足ニーズで重大な領域か？ 商業的価値が最も高い領域はどれか？ 企業は卵巣癌の薬剤開発にどう取り組むか？

報告書の調査範囲

- 対象国：** アメリカ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、イギリス、日本
- 調査方法：** 7ヶ国 19名の専門医への詳細なインタビューと多数の文献調査に基づきます。
1ヶ月に卵巣癌患者5人以上治療する各市場の医師約30名にサーベイを実施しました。
- 疫学：** 診断時のステージ（I-IIA、IIB-IIC、III、IV）毎の上皮性卵巣癌罹患者数
- 患者セグメント：** 早期の一次治療、進行期の一次治療、二次治療のプラチナ製剤感受性、二次治療のプラチナ製剤抵抗性、三次治療、四次以降の治療
- 市場予測の特徴：** 死亡率を組み込んだ独自の患者フローモデルを使用して、全患者セグメントにおける2024年までの患者数と薬剤売上を予測します。

Pages:	Tables:	Figures:	Citations:	Drugs:	Interviews:19
162	69	36	164	50	Surveys:30